

ワークショップが最終回となり、毎回の結果をお知らせしてきた新聞もこの5号でひとまずお休みです。ワークショップの参加者として、また、編集メンバーとしてこれまでかかわってきた私たちが、今回は「梅田川について思うこと」というテーマで編集後記を書きました。

川原の樂しみは人それぞれ。

三月半で家を出でている時に、ママとしてきて、盛会の会いに  
寅はW.S.の醍醐味であり、会約ともちた  
といふオーラーが、寅を、寅はとても悔いをせざる運びの会いで  
ある。着らうなはれいと慶きをせざる運びの会いで  
あり新婚の娘も皆なんのすまいか場であります。  
少様、梅雨川の整備がとつぱりに進む  
がほろくありませんか。  
幸いおつき合いもよしと可頗い  
申上げて子す。

この半年間、梅田川を“仲人”にいぢんな方々と  
知り合えたことが、何より嬉しいなあと鬼ります。  
わが家のアトリエは杉沢上堰のま上の林の中で、  
窓を開けると堰の音、いぢんな鳥や  
虫、植物たちとも出会えます。  
どうぞ遊びに来て下さいね。

予告～新聞また作りましょう～  
New 梅田川水辺の楽校新聞！  
梅田川をテーマとして何か調べ書く場。  
梅田川に関心のある方ご連絡ください。  
梅田川・水辺の楽校協議会  
新聞編集部 担当：松林  
電話 03-3794-8867 (二テア内)

「三つの間」についての考察  
先日の竹田先生のお話の中に、最近の子どもたちは『三つの間』が非常に狭められた中で生活していて、このことが自然体験や生活体験の欠如する結果として現れているという、興味あることを伺った。

この『三つの間』とは、「時間」「空間」「仲間」のことである。これらの『三つの間』のうち、前二者は、相対性理論では不可分の関係にあり、物質の存在の仕方によって変化するものである。『時間』も『空間』も無限であって、人がその中に存在していることが確認された時、『生きている』というのである。その人の集まりが『人間』である。人間同士は『仲間』である。つまり、『仲間』の存在の仕方によって『時間』も『空間』も変わってくるのである。これらの『三つの間』は対等ではなく、『仲間』が左右しているのである。

その『仲間』を作れなくしたのは誰か？物質文明に溺れた現代社会の人たちではないか。何かというと、家庭における縁を忘れた親の責任を棚上げにして、責任を行政や学校に押し付ける態度が、『仲間』を作れなくした最大の原因であろうと考えるのは誤りであろうか。ゴミのポイ捨て問題も粗大ゴミの不法投棄もほとんどが大人たちの仕業である。日本の人たちが、今こそ基本に立ち返って自らを懲悔するときである。断末魔の世紀末がすぐそこまで近づいていますぞ！日本の人たちよ！。（梅田川水辺の楽校プロジェクトに参加して特に強く感じた男の屁理屈）

短いようで長かったワークショップが、ようやっと一区切したことには伴って、この新聞もとりあえずお終いだそうです。杉沢上堰の行く末については、はっきり言ってまだ不透明な部分もあるとは思いますが、個人的にはワークショップを通じて、いろんな立場で川にかかわっている方々と知り合いになれたことが一番の成果だったと思っています。今後は、「それじゃ、私には何が出来るかな?」というあたりを考えようと思いますが、とりあえず梅田川で「魚獲り」をしている中年夫婦を見かけたら、「私とその嫁である」と認知してもらえるようになりたいものだと思っています。(酒巻)

最近完成した梅田川の親水公園で遊ぶ子供達の姿をよく見かけます。自分の家の近くに遊べる川があるたといふのは、大人になってから、なかなかスゴいことだと気付くのではないかでしょうか。

小学生の頃、水曜入浴日は「川口浩の探検隊」をとても楽しみにしていた私は、友達と一緒に「川口」をよく行ったものです。

ターゲットは、「ツチコ」です。そういえば、「ツチコ」という言葉、最近せんせん耳にしません。

梅田川やその周辺の山々には、「ツチコ」がいて、そこで、探検してみたくなります。

# 梅田川水辺の学校 新聞

# みんなの「想い」を「かたち」へ

～最終回・第6回ワークショップが行われました～

去る4月18日(土)新治小学校で、最終回である第6回「梅田川・川づくりワークショップ」が開催されました。

当日はまず、5回のワークショップをふりかえるとともに、前回出された7つの案についての確認を行い、これまでの議論を「みんなの『想い』(第3面)」として共有しました。

そして、堰をどうするか、川の流れをどうするか、合流部の三角地をどのように使うかなどの視点から5つのタイプに

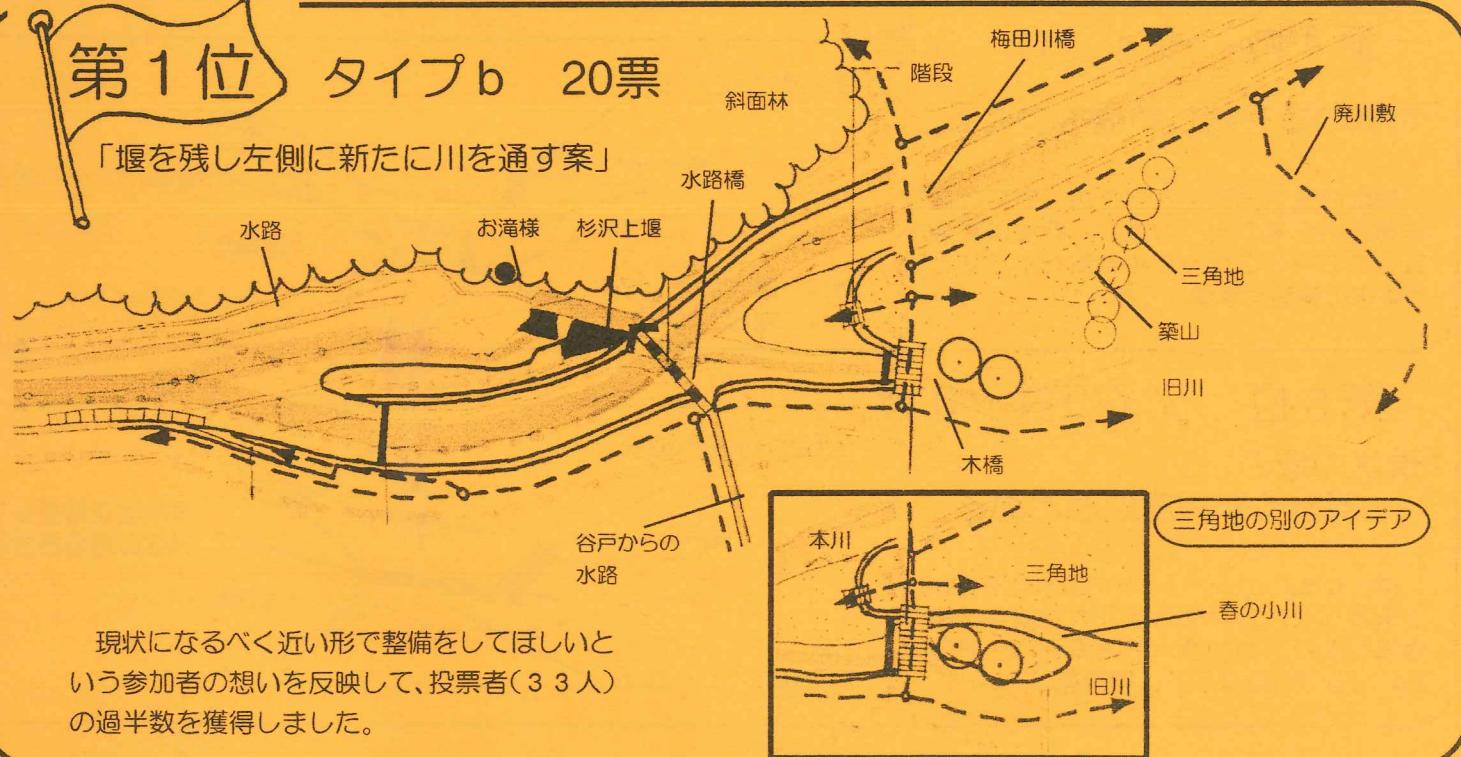
まとめ、どのような想いが込められているのか、技術的にはどのような問題があるのか、などについて意見交換を行い、その後、投票により優先順位を付けました。

その結果、堰を残すことで現実的と思われる整備案(タイプb)に票が集まったようです。

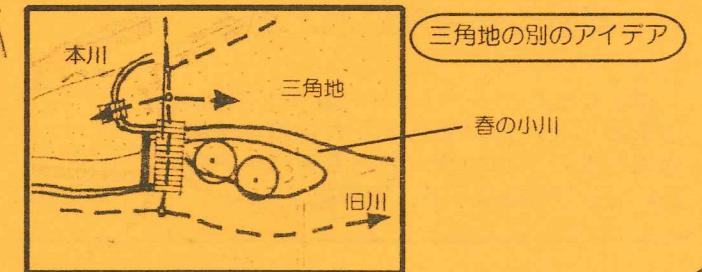
今後は、今回のワークショップで出された結果を踏まえ、設計作業を進めていくことになります。

第1位 タイプb 20票

#### 「堰を残し左側に新たに川を通す案」



現状になるべく近い形で整備をしてほしいという参加者の想いを反映して、投票者（33人）の過半数を獲得しました。



投票した人の声

- ・堰を残すことができ、斜面林も残すことができるので。
  - ・やはり第一に子供達のことを考えた案なので。・自然、歴史的な物を残すことは子供達にとって大切な教育になると思います。・古くから地域に親しまれている堰、お滝様が残せ、河川も自然のかたちで改修できるから。・梅田川の特徴といえる堰のある風景が残るなら、うれしい。ただし、現状の素朴さとはかけ離れてしまうのでしょうか。・水の流し方が楽しそうな感じなので。・遊んで疲れた時に日かけで休める。・やっぱり築山と6本の木。・くるみのよこのおがわがほしいから。あそぶものがいっぱいあるから。



6月11日、梅田川が建設省の「水辺の楽校」に登録されました！

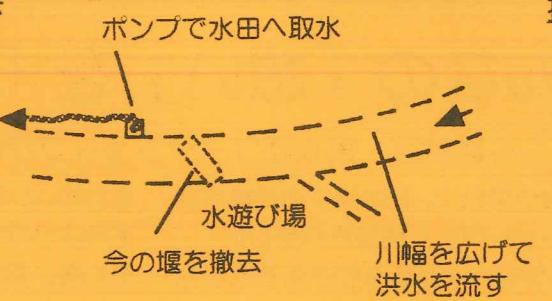
## その他の案の投票結果は…



### 第2位 タイプa 6票

「堰は撤去する」

このタイプは、ワークショップ参加者の「想い」のひとつに堰を残したいということがあります。多くの支持を得るには至りませんでした。



- 投票者の声**
- ・bもいいが、今後の堰を考えると、難点があるため。
  - ・堰が残せないのなら自然を壊さないように。
  - ・改修は確実に必要
  - ・堰の改修も難しそう
  - ・現実的でよい案だと思う。
  - ・川の中で遊べる

### 第3位 タイプe 4票

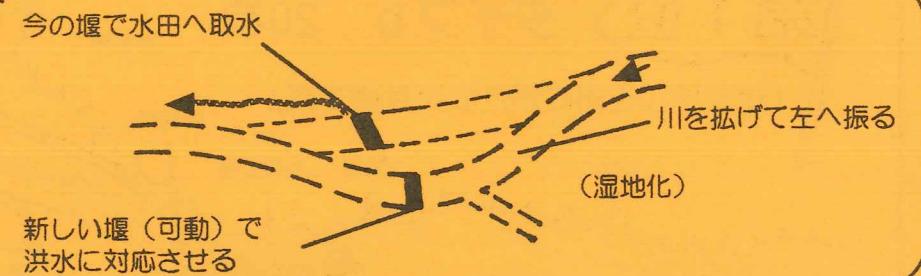
「何もしない」

洪水解消のために改修せざるを得ないのはわかるが、それでも現状の環境に手を加えてほしくないという想いを集めて第3位。

### 第4位 タイプC 3票

「現状の堰を残し新堰をつくる」

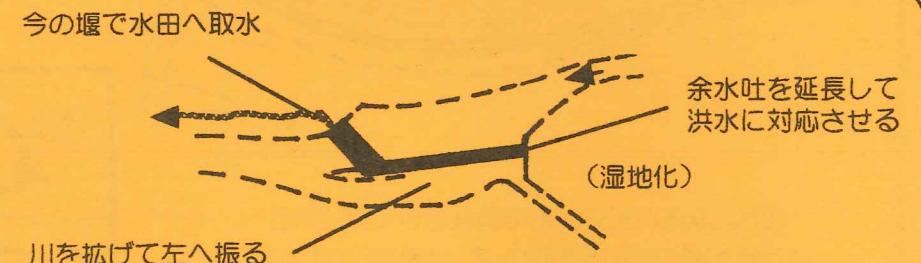
現状の堰と自然を残すため、新たな堰を作るという考え方。しかし、新堰の周辺がコンクリートになるため自然を生かすという本来の趣旨と矛盾して第4位。



### 第5位 タイプd 0票

「現状の堰の部分改修程度にとどめる」

現状 6mのコンクリートの余水吐を70m以上延長しなければならず、大規模な改修が必要となり、かつ余水吐下流をハードな構造にしなければならず、得票なし。



W.S.最終回です

## 参加者の声

- ・これで最終回ではもったいない気がしました。この先の技術・予算・環境等、詳細な条件を出した上で検討をじっくりしてみたいと思いました。最終的な判断が、市民と行政でじっくりできるといふのがいいと思うのですが……。
- ・午前中の一本橋下流の記念植樹は私の一生の思い出となる。皆さんご苦労様でした。
- ・図がわかりやすくて良かったです。皆さんの熱い想いも伝わってきました。
- ・全案をならべてどれが良いか、という前に一つ一つの案について討議する時間がほしかった。
- ・「行政としては…」という発言がとても多くて自由な発想という感じがそがれた。
- ・皆で話しあう雰囲気づくりが良かった。
- ・今まで一番楽しかったです。行政の方の意見がもっと早くからきた方がよかったです。今後、詳しい設計の段階で、皆さんの意見が反映され、そして最終的にいい空間になることで、合意を得られるものと思います。
- ・メンテナンスをしないで保護しようと言うのはムリ。校長先生の言うようにメンテナンスができる体制を作るのが重要。
- ・5つのタイプへの整理、さらにその中の縁組み。はじめは、若干強引かな、とも思いましたが、今後、詳しい設計の段階で、皆さんの意見が反映され、そして最終的にいい空間になることで、合意を得られるものと思います。
- ・自分の想いのみにとらわれることがむずかしいと感じました。諸条件は会のはじめに言うべきなのか、否か…
- ・案が一応まとまることは、良かったが、現状の維持に基本的に賛成している、住民の意見を最終案にどれだけ反映できるかが大切ですね。

# 今どきの学校と梅田川

梅田川の流域にはいくつもの学校があります。このワークショップにも小学校の先生方や大学の教授、学生の方々も参加しています。梅田川の流域にあるこれらの学校では、今梅田川とどんなかかわりをもっているのでしょうか。

新治小学校のウォークラリーの様子です  
(右のページ)

新治小学校では環境そのものをよい教材として捉え、積極的、継続的に活用していくようなプログラムの開発を目指しています。  
(山口先生からのご寄稿)

### ●小学校での取り組み

梅田川流域にある学校の先生方に、学校と梅田川のかかわりについて伺いました。

学校名	今行っていること	これからしてみたいこと
新治養護学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊歩道の散歩</li> <li>・川原での水遊び</li> <li>・念珠坂公園などの植物採集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川遊び（水遊び、石ひろい、ザリガニとりなど）</li> <li>・四季の変化を感じさせたい（鳥の声、森の香りなど）</li> <li>・水田などの泥遊びなど、土の感触を味わってもらいたい</li> <li>・間近で水鳥を観察したり、魚や水辺の小動物を見せたりしたい</li> </ul>
新治小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新治の谷戸奥で地層の観察</li> <li>・梅田川で魚とり→クラスで飼育（クチボソ、フナ）</li> <li>・流れる水の動き→川の曲がるところでの川底の様子や流れる速さ</li> <li>・クラブ→新治小横の梅田川沿いで化石採り</li> <li>・「はっぱや いしも みんなの なかま」造形遊びで学校近辺の川べりに出かけて、自然材料を集めめた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供と先生との話し合いで「地域の人物マップ」を作りたい。子供達が勝手に地域を歩いて、流域人物、地域のことを教えてくれる人を探し、人に話をきくことで、人を尊敬する気持ちが身に付いてすることにつながる。</li> <li>・川遊び、粘土集め・写生・七草つみ</li> </ul>
三保小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・单元名「あきとあそぼう」→念珠坂公園などで木の葉や実、昆虫などをさがす。今年はどんぐりが少なかったが、じゅず玉がたくさんあり、ネックレスや楽器を作って楽しんだ。</li> <li>・梅田川や周辺の森の様子を調べる</li> <li>・メダカ、ヤゴを放流した</li> <li>・上流の田んぼ付近にホトケドジョウやメダカ、おたまじゃくしをとりにいった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・梅田川だけでなく、谷戸奥での観察なども行っている</li> <li>・生きものの観察、生態調べ</li> <li>・ネイチャーゲーム</li> <li>・河川の汚れなど水質検査（高学年）</li> <li>・メダカの放流（5年理科）</li> </ul>

ワークショップのもうひとつの成果

## 梅田川の川づくりへの みんなの「想い」は…

対象地区の「かたち」をどうしていきたいのか？そこにはグループをこえて共有化された「想い」がありました。その「想い」をまとめたものが下の図です。

「想い」を「かたち」につなげられたことも今年度の梅田川水辺のワークショップのもうひとつの成果です。今後、設計を進めるにあたっても「かたち」と同時に参加者の「想い」もきちんと盛り込んで進めていってもらいたいですね。

今ある自然を残し育てたい

### 自然

- ・斜面林は残す
- ・川の自然を回復しよう
- ・河畔のシノダケ林
- ・オニグルミを残しシンボルにする

- ・堰や斜面林の管理は行う必要がある
- ・林の管理のために小径をつける

### みんなの「想い」

もっと川に関わりたい

#### 利用

- ・自分たちで管理したい
- ・大人と子どもが遊び学べる場
- ・流域や生物、お滝様、堰などの案内板
- ・水際部には木道を設置

堰とお滝様は地域の宝物だ

### 歴史・文化

- ・堰の活用とお滝様の保存
- ・地域の大切なところ  
～堰、お滝様は  
梅田川のヘソ
- ・文化的価値
- ・昔の風景を取り戻す
- ・堰、水路、水田を一体で残したい

- ・残すためには地域の了解が不可欠
- ・田んぼがなくなった場合堰の大きい存置理由がなくなる
- ・老朽化した堰の補修、  
水路の管理
- ・河積の確保

### 安全

- ・洪水対策が必要
- ・スロープ・階段・柵の設置
- ・小さい子どもに配慮する

### やすらぎ

- ・憩いの空間とする
- ・川の景色を眺める場所
- ・昔の川の再生（春の小川）
- ・歩くのを楽しむ静かなところ
- ・人々の集う場所



- ・各案にしぼったポイントをもう少し説明していただいた方が、良かったと思いましたが…。
- ・各プランの特徴をいくつかのポイントで示した方がより違いが明確になったように思います。専門技術的な内容の解説は案外難しいですね。
- ・とても楽しくできました。みんなの想いがよく出ていました。
- ・参加者の皆さんが真剣にとりくんでいる。
- ・「梅田川のワークショップ」の一番最初のテーマとして「子供達が水辺で親しめるような川づくり」ということでした。が、やはり子供達を中心とした考え（子供達の学びの場とする）を大切にして欲しいと思います。子供達の意見をもっと聞きたかったです。
- ・これまで十分理解の上で話しあってきましたことに対して、行政側の言い訳が多すぎた。（それだけ危機感があったのでしょうか）あまり、いい感じではなかった。

# たのしかったな にいはるラリー

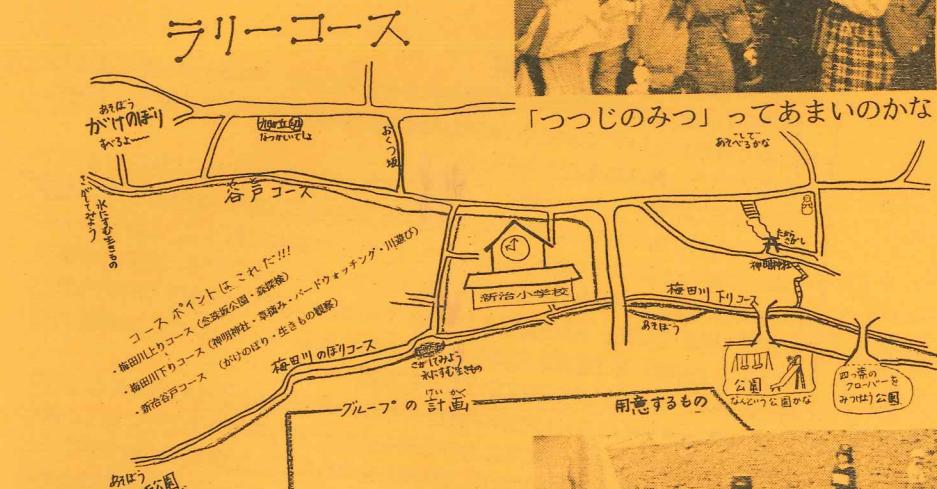
新治小学校のすぐ裏側に梅田川が流れています。休み時間にサンダルをつっかけて気軽にいけそうな距離で、川の流れの音が耳に心地よく聞こえてきそうです。

梅田川を愛する皆様のお陰を持ちまして、この度、子どもたちが安心して遊べる場所へと整備がなされました。本校では、川の持つ魅力を考え、本校のねらう『豊かな人間関係の育成』の一環としてさっそく、その梅田川沿いを探索したり、遊んだりする全校ウォークラリーを実施しました。ラリーは、去年からの子どもたちの要望もありました。

どこで何を見せたり、遊ばせたりしたらよいか考えあぐねていたところ、整備されたというニュースは一気にGOサインとなりました。それでも、危険な場所はないか、まむしは出てこないかななどの不安があり何度も雨の中、下見をしましたが、これが楽しくラリー計画に拍車がかかったのでした。



いい、わたしの真似して登るのよ！



遊具もいいけど 川遊びだよな

- ・川の水はつめたかったけどおもしろかったよ。
- ・掛けが、つるつるすべるから、びっくりしちゃった。
- ・みんなで、おべんとうをたべたからうれしかった。

### ラリーを終えて

- ・小さい子のめんどうを見るのが大変だった。でも、いろいろてきたから、また、やってみたいな。
- ・自然で遊ぶのも結構できたよ。

低学年の混合グループ  
(12名ぐらい) を編成し、  
3コースの中から選択。  
計画会議・なかよし給食は  
そのたてわり班で一緒に。

### 全校ラリー ポイントカード

『川遊びコース』 チーム

ポイント	問題	チェック
①	神明神社で宝探しをした。	20点
②	神明神社で宝と引きかたにキヤンディーをもらつた。	20点
③	神明神社で、みんなで木で遊んだ。	20点
④	川遊びの前に写真をとつてもらった。	20点
⑤	川遊びの時、色の違う石を3つ見つけた。	20点

合計点 \_\_\_\_\_ 点！

- ・子どもたちは楽しそうでしたね。秋にも、またやりましょうよ。
- ・掛けのぼりが、よかったです。